

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期における国内経済は、東日本大震災により大きな打撃を受け、復興による景気回復の兆しの一部が見られるものの、生産や輸出が減少し、企業収益は圧迫され、設備投資の動向も鈍化するなど厳しい状況が続きました。また電力問題の深刻化や政局の混乱など先行きの不透明感は払拭できないまま推移しております。

当社グループの主要取引先となります自動車業界におきましても、サプライチェーンの急速な復旧により回復基調にあるものの、震災による直接的な被害に加え、部品供給網が寸断されたため自動車生産台数が落ち込み、大きな打撃を受けました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、販売数量減少により6,747百万円(前年四半期同期比8.9%減)となりました。利益面におきましては、受注量の減少により、営業損失は16百万円(前年同期は営業利益319百万円)、経常損失は47百万円(前年同期は経常利益266百万円)、四半期純損失は11百万円(前年同期は四半期純利益164百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

資産の部については、流動資産が13,249百万円となり、前連結会計年度末に比べ302百万円の増加となりました。固定資産は7,402百万円となり、前連結会計年度末に比べ322百万円の増加となりました。

負債の部については、流動負債が9,197百万円となり、前連結会計年度末に比べ270百万円の減少となりました。固定負債は6,603百万円となり、前連結会計年度末に比べ974百万円の増加となりました。

純資産の部については、株主資本が4,601百万円となり、前連結会計年度末に比べ83百万円の減少となりました。その他の包括利益累計額は72百万円となり、前連結会計年度末に比べ11百万円の増加となりました。

少数株主持分は、176百万円となり、前連結会計年度末に比べ7百万円の減少となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は68百万円であります。